

地域の誇りとして、これからも走り続けたい

昨年9月の台風15号の影響で甚大な被害を受けた大井川鐵道。今年の10月には、運休区間を活用した「線路ハイキング」を実施するなど、新たな企画で来場者を魅了しています。同社の加冷さんは広報担当の傍ら、新たな乗車体験の企画を担当。持ち前の発想と行動力で、大井川鐵道の魅力を発信します。

【思いを詰め込んだ客車列車】
鉄道好きが高じて大鉄に入社した加冷さん。ファン目線の客車列車企画で、乗る人の心を掴みます。

「台風被害後から、社内では担当を超えた業務の取り組みが推進されていました。その中で私は、普段SLに連結するレトロな旧型客車を電気機関車で牽引する、客車列車の運行を提案。以前、車両練りの都合で突発的に同様の運行をしたことがあり、当時のSNSの反応を参考に、一から



当時のSNSの反応を参考に、一から

企画を練りました。私自身も鉄道好きなので『こんな演出があったら面白い』と思うことを盛り込んだ結果、予想以上の大反響。お客さまの笑顔を見て、心からやって良かったと思います」

りました。学生にとって、乗車時間は貴重な学習のひととき。大切な時間を奪った反省から、全てのお客さまが快適に過ごせるよう、定期利用者専用座席や客車の増結などの改善を行いました。乗客の多くが観光

風景は大井川鐵道が守るべきものなのです」

【今後も地域の誇りとして】

「当社最大の売りは、随所で感じる昭和レトロ。それが令和の暮らしに自然と存在することで、この地域ならではの風景を作り出します。いつかSLを各駅停車にして『SLで通学してました！』と、誇らしく話す学生が現れたらと夢を描いています。被災後の当社には、皆さまから数多くの励ましの声が届きました。その一つ一つには、この地域の誇りとして『これからも走り続けてほしい』という期待が込められています。そのないかと感じています。その期待に応えるためには、大井川鐵道にしかできないことに磨きをかけ、流域の魅力を発信し、一人でも多くのお客さまに乘車いただくことが必要です。これからも、この地域の誇りとして走り続けます」
未来を見据え、力強く語る加冷さん。溢れんばかりの大鉄愛から生み出されるアイデアによって、これからも沿線に笑顔運びます。



大井川鐵道(株) 経営企画室(広報担当)
加冷英鵬さん(金谷東2丁目)

【観光と地域輸送を両立】

新たな企画で会社を盛り上げる加冷さん。大井川鐵道に求められることを話します。
「客車列車の運行当初、通学で利用者する学生が、混雑で座れずにデッキに立つことがあ

利用ですが、当社は住民の足として地域輸送の役割も担います。異なる目的で乗車するお客さま全員に、満足してもらうことは至上命題。昔ながらの客車を楽しむ観光客の横で、学生が参考書を片手に通学する



「線路ハイキング」で新たな大井川鐵道の楽しみ方を体験する参加者

Shimadajin File #141

Story 島田人